

琵琶湖における調査結果中間概要

第2回

琵琶湖オオクチバス等 防除モデル事業調査 検討会

2006年12月18日

琵琶湖における調査

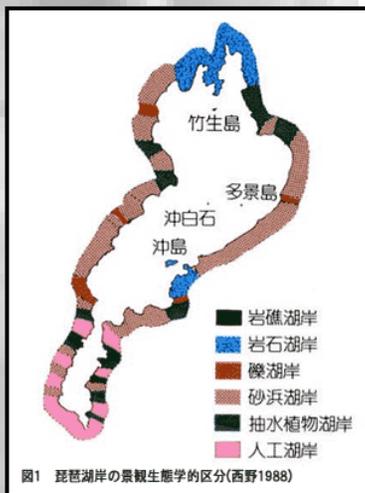
- 漁獲統計整理
 - 漁協への聞き取り調査
 - 冬季蛸集調査
- 繁殖場検討
駆除方法検討
冬季蛸集場検討
-

繁殖場検討

- 琵琶湖沿湖40+ 漁協のオオクチバス等漁獲統計資料より琵琶湖内でのオオクチバス等の分布概略を把握
- 代表8漁協への聞き取りを行い漁獲統計情報を補完するとともに各地先でのオオクチバス等の繁殖状況を把握

湖岸景観等より4つに区分
 岩礁湖岸中心、急深の湖北
 砂浜湖岸中心、急深の湖西
 砂浜湖岸中心、遠浅の湖東
 人工湖岸中心、全浅の湖南

聞き取りは各区分から
 漁獲量が多い等により
 2漁協ずつを抽出



駆除方法検討

- 代表8漁協への聞き取りによりオオクチバス等の効果的な駆除手法を検討

冬季蛸集場検討

- 代表8漁協への聞き取りによる冬季蛸集場の情報収集
- 冬季蛸集場といわれている総門川河口での蛸集状況調査
- 冬季蛸集場であることが明らかな彦根旧港湾における蛸集状況調査

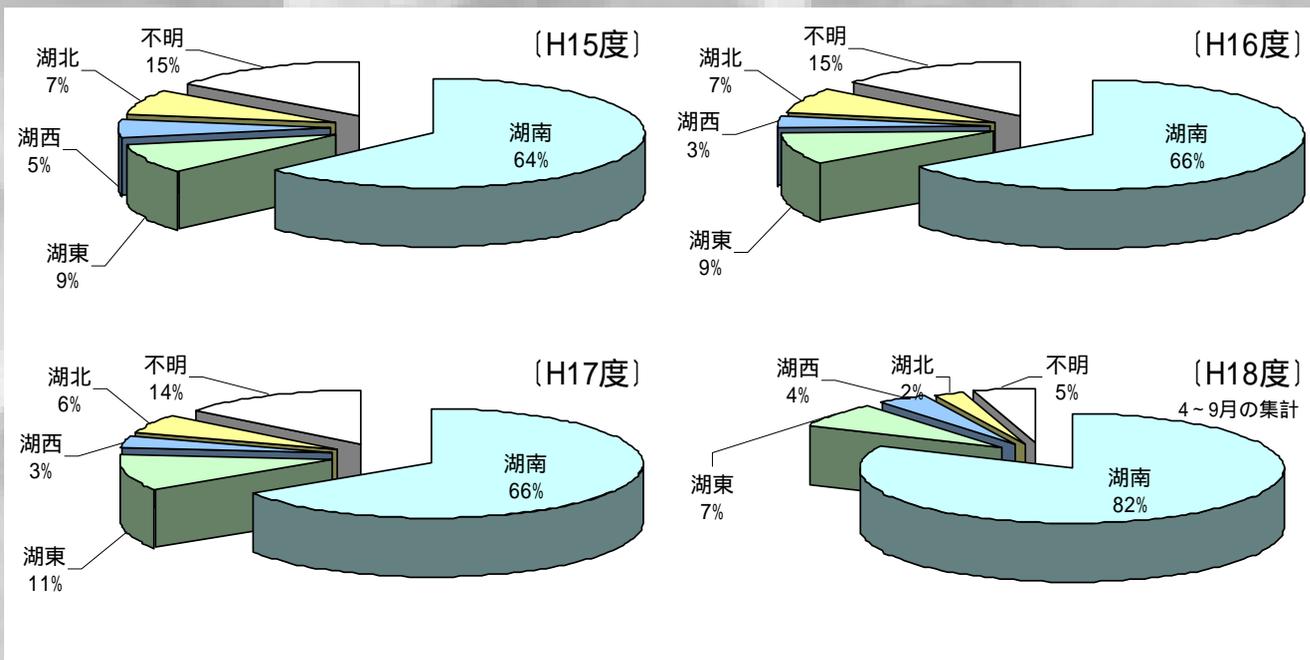
蛸集状況調査実施予定地



調査結果概要（予報）

■ 漁獲統計整理結果 〔地理的分布〕

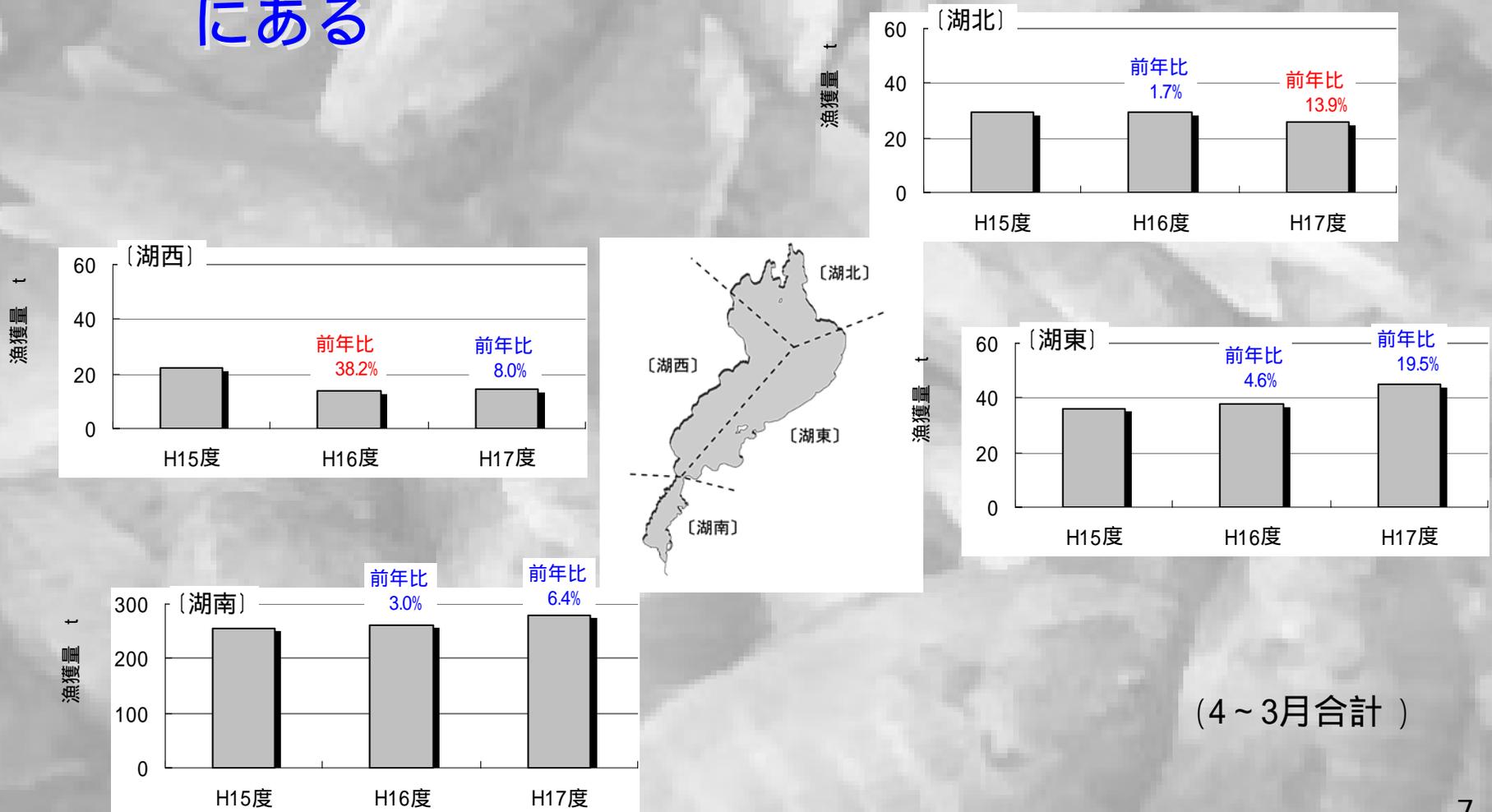
■ 外来魚駆除量は湖南で圧倒的に多い



（沖島、漁青連、真珠母貝組合、真珠養殖組合、余呉湖は不明とした）

■ 漁獲統計整理結果〔経年変化〕

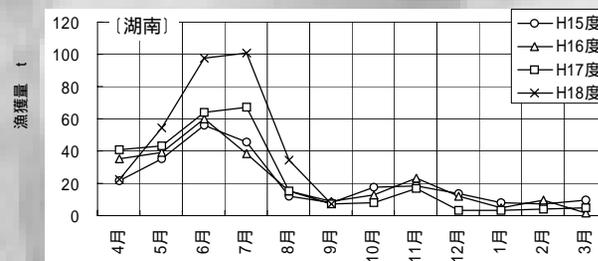
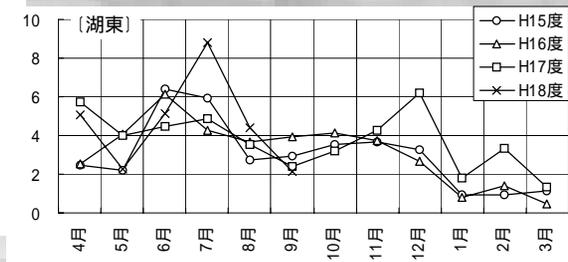
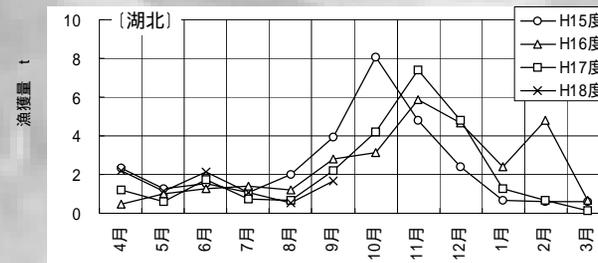
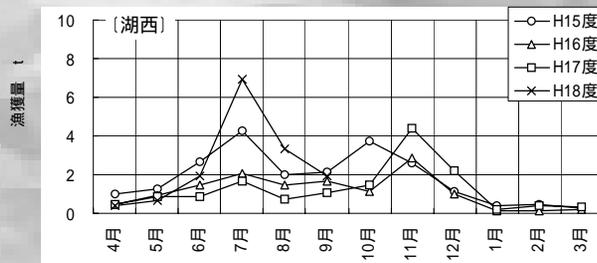
■ 外来魚駆除量は湖東と湖南で経年的に増加傾向にある



(4~3月合計)

■ 漁獲統計整理結果〔季節変化〕

- 湖南では初夏に偏って漁獲されるのに対し、湖北では秋～冬の漁獲が多い。湖西、湖東は湖北と湖南の中間的な様相である。



■ 漁協聞き取り調査結果（予報）

- 琵琶湖でのオオクチバス等の産卵適地推定のための
 - (1)産卵場に関する情報
- 漁獲統計を検討するための
 - (2)漁獲状況に関する情報
- 効率的な駆除を行う参考とするための
 - (3)漁獲手法と生息環境に関する情報
- 大津市総門川河口と彦根旧港湾以外の場所での
 - (4)冬季蝟集に関する情報

を中心に聞き取りを行った。また、可能な限りオオクチバスとブルーギルの情報を分けて聞き取った。

■ (1)産卵場に関する情報

- **バス**の産卵は砂地。紅鮎（旅館）の裏で産んでいる。〔朝日漁協〕
- **ギル**の産卵場所は不明。**バス**よりも環境の選択性が広いのではないか。〔朝日漁協〕
- 萩の浜の南部分（疎なヨシ帯、浅い砂礫底が広がっている）ではヨシが伸びてくる時期（4～5月）に**バス**の大きいものが目視でき、ヤスで突ける〔高島漁協〕
- **バス**産卵適地は琵琶湖沿岸部全域。藻さえあれば産卵する。〔海津漁協〕
- 子持ちの**バス**、**ギル**がとれるのは西の湖と水路から長命寺川が多い。長命寺出口（琵琶湖との連絡口）でも多くとれるときもある〔近江八幡漁協〕
- その他、**バス**もしくは**ギル**の稚魚がいるという情報を得られた漁協：朝日漁協、高島漁協、海津漁協、近江八幡漁協、彦根市磯田漁協（現時点の全ての漁協）

■ (2) 漁獲状況に関する情報

- 春は小糸網、秋はエリで多い傾向あり〔朝日漁協〕
- **バス** 駆除は主に8月以降にやっている これはアユが産卵のため沿岸部に寄り、それを追って4年魚以上の**バス**が浅場に集まり効率がいいから〔海津漁協〕
- 春はニゴロ用の刺網に大型で子持ちの**ギル**、**バス**がとれる 子持ちの大型**バスギル**は重い〔近江八幡漁協〕
- 釣りは漁師がやる 秋の刺網のできない期間〔近江八幡漁協〕
- どの漁法でも圧倒的に**ギル**が多い(8~9割)〔朝日漁協〕
- 漁獲割合は**ギル**が8割、**バス**が2割で時期、漁法にかかわらずほぼ一定〔高島漁協〕
- **バス**用刺網は他種の混獲率が極めて低い(**バス**9割以上、**ギル**1割弱、在来魚ごくわずか)海津漁協ではほかにエリで**ギル**がとれているが、**バス**刺網に比べ非常に少ない〔海津漁協〕
- とれるのは8割が**ギル**〔近江八幡漁協〕
- 釣りはサシ虫餌でほとんど**ギル** 投網はほとんど**バス**〔彦根市磯田漁協〕

■ (3) 漁獲手法と生息環境に関する情報

- 片山では沖曳きをやったことがあるが、藻もとってしまったため **バスギル** も在来魚もいなくなった。**バスギル** は潮の流れが速くなるといなくなるようだ。〔朝日漁協〕
- **ギル** の大型個体は乙女が池と漁港の連絡水路の漁港側（急深になっている）に多く、やはり流れのないところを好んでいるようだ〔高島漁協〕
- 台風が繰り返し来た年（2004年）には打下浜（琵琶湖岸）で藻がなくなり、**バスギル** も減った〔高島漁協〕
- 3年魚以上の**バス**の生息場所とヨシは関係ない〔海津漁協〕
- 2年前に大型の**バス**を狙ってとったところ、冬場にはワカサギを追って水深20mのところが多かった〔海津漁協〕
- **バス**駆除は主に8月以降にやっている。これはアユが産卵のため沿岸部に寄り、それを追って4年魚以上の**バス**が浅場に集まり効率がいいから〔海津漁協〕

■ (3) 漁獲手法と生息環境に関する情報

- **バス**は性質上エリのような定置網には入らない〔海津漁協〕
- とりつくしたので現在は海津近辺では大型の**バス**はおらず、アユやモロコが増えている やらうと思えばとりつくすことは可能〔海津漁協〕
- **バスギル**は陰のあるところにいる 藻のあるところ、船の沈んでいるところなどにギルがあり、それを食べるために**バス**がいる〔近江八幡漁協〕
- アユ用のエリが2統あるがなぜか**バスギル**はほとんど入らない〔彦根市磯田漁協〕



バス専用刺網による聞き取り当日の漁獲〔海津漁協〕

■ (4) 冬季蝟集に関する情報

- 2年前に大型の**バス**を狙ってとったところ、冬場にはワカサギを追って水深20mのところが多かった〔海津漁協〕
- **バス**3年魚は冬になっても深場に移動せず、浅場の藻場（水深1～5m）にいる〔海津漁協〕
- 西浅井の大浦湾は湧き水があり**バス**の冬の蝟集場となっていたがもうとりにくくなったのでいない〔海津漁協〕
- 冬は西の湖では外来魚は深みにいる 真珠棚のあるところで水深4m程度 フナもここに移動する 真珠棚があるのでとりにくい場所〔近江八幡漁協〕
- 冬季に雄琴港で横断方向に刺網をいれると、浚渫航路の底部分（最も深い場所）で**ギル**がぎっしりとれる **バス**はその両側、浅い場所をとれる〔大津漁協〕



今後の予定

■ 繁殖場検討

- 琵琶湖オオクチバス等産卵場マップについて、今年の漁獲統計、漁協聞き取り調査結果を考慮し再検討を行う。

■ 駆除方法検討

- 魚種や時期による効率的な駆除方法（漁法）を検討する。

■ 冬季蝸集場検討

- 蝸集状況の再確認（におの浜、彦根旧港湾）
- 冬季繁殖可能性確認（彦根旧港湾）

情 報

防除モデル検討への基礎資料とする